

しまねOSS協議会 総会記念講演
第154回オープンソースサロン



jus 日本UNIXユーザ会Presents

闘う男 法林浩之氏が送る
**平成生まれのための
UNIX&IT歴史講座**

～IT/OSSコミュニティ編～

#UNIX歴史講座

本日の資料は
こちらで公開します

<https://www.slideshare.net/hourin/>

もしくは
「slideshare 法林」とか
「法林浩之」で検索



法林 浩之



@hourin

- 日本UNIXユーザ会(jus) 幹事(副会長/元会長) (1989-)
 - さまざまなコミュニティとイベントを開催
 - 全国各地のイベントで研究会を開催
- フリーランスエンジニア (2008-)
 - 独立以前は15年ぐらい会社員でインフラエンジニアやシステム開発など
 - 近年はさくらインターネットの仕事が多い
 - イベント運営/対外コミュニティ窓口/技術ブログ編集など
 - 自らの企画で多彩なイベントを開催
 - TechLION、技術広報の集いなど
- くわしくは「法林浩之」で検索

本日の演目

- 主にjusの会報からITコミュニティの歴史をたどる
- 特にOSS関連のコミュニティの歴史を中心に紹介
- これらの体験から、コミュニティの発展や衰退について考察
- コミュニティの終活について考える

日本UNIXユーザ会 (jus)



[ホーム](#) [About jus](#) [入会/更新案内](#) [イベント情報](#) [運用研究会](#) [活動履歴](#) [会員ページ](#)

JAPAN UNIX SOCIETY SINCE
1983

[ABOUT JUS](#)

1983年設立
日本におけるUNIXや
OSSコミュニティの草分け

jus

JAPAN UNIX SOCIETY NEWSLETTER

/etc/wall

2025

事務局だより.....	2
2024年度収支報告 井上尚司(jus 事務局長).....	4
2025年度役員と幹事.....	5
2025年度活動計画.....	6
2025年度予算 井上尚司(jus 事務局長).....	7
2025年度定期総会報告 法林浩之.....	8
Learn Languages 2024 報告 法林浩之.....	11
jus 研究会報告 榎真治、法林浩之、松澤太郎.....	16
勉強会報告 江川尋喜、法林浩之.....	29

主に活動報告を掲載

jus幹事が編集

設立当初から現在に至るまで継続

jusの会報
/etc/wall

UNIX歴史講座を始めた経緯

- 昔の/etc/wallは紙で発行 (現在はPDF)
- jus事務局に眠る古文書の電子化を推進中
- 作業中に/etc/wallが全巻発掘され電子化 (2018年)
- /etc/wallに書かれた活動記録を紹介することで、当時のUNIX業界やIT業界の状況を伝えたい
- 40年余の活動を一度に紹介するのは無理なので、各回ごとに年代を区切ったりテーマを設けたり、ゲスト(元jus幹事など)を呼んで話をしてもらう
- これまでにおそらく30回以上実施

「平成生まれのための」に込めた想い

- 元ネタは「平成生まれのための『Unix考古学』～GitHubなしでどうやって開発していたの？～」(2016年のOSC京都)
 - 4.4BSDの開発に携わった人に平成生まれの人が質問するという内容
- 昔を懐かしむだけの講座にはしたくない
- 当時を知らない人にこそ聞いてほしい
 - 平成生まれ(35歳以下)は知らない人が大半だろうと推測
- 歴史を学ぶ意義は、過去から得られる教訓や知識を現代社会の理解や未来の創造に活かすこと(GoogleのAIによる回答)
- コミュニティはどのようにして成り立ち、どういう経緯を経て今のようになっているのかを知れば、未来のコミュニティを正しい方向に導けるのでは？

おことわり

- 今日の内容は当時のIT業界のごく一部
 - jusの活動記録から見た当時の状況説明
 - jusの活動範囲外の出来事は載っていない
 - 時間の関係で割愛する話題も多い
- NGワード
 - (俺の思い出の)あの出来事が載っていない
 - なつかしい(平成生まれは知らない話なのでそんなことは言わないはず)

昭和生まれの皆さんへ

発表内容の補足情報を
ハッシュタグを付けて
投稿してください

#UNIX歴史講座

本日の演目

- 主にjusの会報からITコミュニティの歴史をたどる
- 特にOSS関連のコミュニティの歴史を重点的に紹介
- これらの体験から、コミュニティの発展や衰退について考察
- コミュニティの終活について考える

jusの会報から
IT/OSSコミュニティの
歴史をたどる

jusの黎明期(1980年代)から
年代を追って
/etc/wallの誌面を紹介

jus JAPAN UNIX SOCIETY NEWS LETTER

/etc/wall

No.1/1984/JANUARY

ニュース・レター発刊にあたって

UNIX に対する一般の関心が高まる中で、日本 UNIX ユーザ会が設立されすでに6カ月が経過し、ここにニュース・レターを発刊する運びとなりました。

ふり返ってみると、UNIX はもともとハードウェア・メーカーとは独立した形で開発され、Bell 研究所（現在は AT&T）から一般に配布されています。UNIX を導入し利用しようとする場合、ユーザは程度の差こそあれ、何らかの形でオリジナル・ソースの修正を行ったり、各種のツールを追加したりしなければなりません。そのさい、すでに類似の経験を持つ他のユーザとの情報交換がきわめて役に立ちます。

インフォーマルな研究会が存在し、その後 Decus / Japan の設立にともない、その分科会 (UNIX-Sig) として発展的に解消されました。しかし、PDP や VAX だけでなく、さまざまなメーカーのさまざまなコンピュータの上で UNIX が稼動するようになってきた状況から、より中立的で自由な形のユーザ・グループの必要性が感じられ、日本 UNIX ユーザ会の設立に致りました。

本ユーザ会の会員数も 500 名を越え、これからさまざまな活動の輪が広がることが期待されています。しかし、本ユーザ会のすべての活動はボランティアに依存しており、“志” ある会員の協力なしには成り立ちません。

/etc/wall 創刊 (1984年1月)

すでに米国では、USENIX, Software Tools Users Group, /usr/group など、また欧州にも EUG が存在し、活発な活動を続けています。日本では、1980年から81年にかけて、東京大学の石田晴久教授を中心としたインフォーマルな研究会が存在し、その後 Decus / Japan の設立にともない、その分科会 (UNIX-Sig) として発展的に解消されました。しかし、PDP や VAX だけでなく、さまざまなメーカーのさまざまなコンピュータの上でUNIXが稼動するようになってきた状況から、より
中立的で自由な形のユーザ・グループの必要性が感じられ、
日本UNIXユーザ会の設立に致りました。

jusの設立経緯

UNIX伝来からjus設立まで

- 石田晴久先生により日本にUNIX伝来(1976年)
- 関係者を巻き込んで勉強会を開催
(コミュニティの形成)
- DECUS(DEC社のユーザ会)にUNIX部会設立
- 1980年代に入ると各メーカーからUNIXマシンが発売されたので、DECUSから独立してjus設立(1983年)
- 当時は「コミュニティ」ではなく「ユーザグループ」と呼んでいた
 - ただし「コミュニティ」という単語は1980年代の/etc/wallにも散見される

第1回 UNIXシンポジウム

jusの発会式と第1回シンポジウムを6月10日に機械振興会館で開催しました。会場の入口では入会手続きも行なったため、一時は待行列ができるほどの盛況でしたが、ボランティアの協力もあり無事に250名以上の参加者の手続きもスムーズに行なわれ、予定どおりにシンポジウムを運営することができました。AT&Tからの発表、パネル討論、技術発表と続き、夕方の情報交換パーティにも多数の参加者を得、jusの将来を約束するように大成功のうちに一日を終えることができました。

シンポジウムでの各セッションの概要は以下のとおりです。

最初の行事：UNIXシンポジウム (1983年6月10日)

シンポジウム

- UNIXに関するカンファレンス
 - 論文を提出する学会に近いスタイル
- jus創立時(1983年)から2001年まで、毎年2回開催(夏は東京/秋は大阪)
- 主な内容
テクニカルセッション、併設展示会、
情報交換パーティー(懇親会)、BOF

係向けの方がはるかに安い。以下に SystemV の価格を記す。

● 民間向け一般価格

1 台目の CPU \$ 43,000

2 台目以降 (1 台につき) \$ 16,000

System-IIIからのグレードアップ
(全 CPUで) \$ 1,000

32 Vからのグレードアップ
(1 台目, 2 台目以降) \$ 6,000, \$ 2,000

第1回シンポジウムにて報告された
System V (AT&T社のUNIX)の
ライセンス価格 (当時1ドル = 240円)

月例会報告

(8月次月例会報告)

去る8月25日(木), 機械振興会館・第1会議室において, UNIX ユーザ会8月次月例会が開催され, 以下の発表が行なわれた。

USENIX 報告

- Presentation 石原 千秋 (SRA)
 小島 富彦 (日立)
 深瀬 弘恭 (アスキー)

• Q & A

ソース・コード・コントロールについて

- SCCS 相川 秀幸 (富士通)
- RCS 北川 和裕 (慶応大学)
- CCS 黒須小枝子 (SRA)
- フリー・ディスカッション

月例会

設立から
約1年ほど
継続

コミュニティ
による
勉強会の
原形？

分科会紹介

jusでは、UNIXに関連したテーマの中から会員の間で特に興味のあるものを選び、会員相互の議論の場として「分科会」を運営していくことにした。「分科会」はsig (Special Interest Group) 的な集まりであり、参加者全員の活発な討論によってテーマに対する情報の交換・勉強を行なっていくものと考えている。

現在、「super user 分科会」，「ネットワーク分科会」，「ワークステーション分科会」の各分科会が発足している。以下には、各分科会の活動方針，活動状況をま

分科会が発足 (1984年4月)

分科会

- スーパーユーザの会
 - UNIXの{インストール/バージョンアップ/運用/管理/バグレポート/改造}
- ワークステーション分科会
 - ユーザインタフェース/ウィンドウシステム/LAN
 - Sunの話題が中心。次いでMac(当時はUNIXベースでない)
- ネットワーク研究会
 - UNIX広域ネット(JUNET)/海外との接続/LAN

■Session2/usr/lid

(チェアマン：浅見 徹)

UNIX 広域ネットワーク

東京工業大学 村井 純

計算機研究者用の UNIX ネットワーク JUNET に関する発表を行なった。JUNETの目的として、計算機研究者の情報交換ネットワークの実験、広域分散環境の研究基盤の構築、国際リンクとの結合、などをあげることができる。

第4回シンポジウム(1984年11月)にて
JUNET(1984年設立)の構築に関する発表あり
日本のインターネットの祖先

UNIX シンポジウム・プログラム

第7回

日時: 1986年7月3-4日

場所: 東京 虎の門 農林年金会館

[第2日]

SESSION-4 (特別講演) Chairman: 村井 純 (東京工業大)

- NFS を中心としたネットワーク環境 Dr. Tony West (Sun Microsystems)

SESSION-5 (Network) Chairman: 西村 亨 (名古屋工業大)

- TCP/IP による UNIX ネットワーク環境 村井 純、篠田 陽一、加藤 朗 (東京工業大)
- ネットワークへ日本語で気楽に…… mh.5 と rn によるメールとニュースの利用
..... 長谷部 紀元 (図書館情報大)
- TCP/IP ネットワーク・システムの一考察 出口 巖 (データコントロール)

第7回シンポジウム(1986年7月)には
NFS、TCP/IP、メール、
ネットニュースなどの発表あり

JUNETが研究用ネットワークとして普及

UNIX ワークショップ'86

in

横 浜

はじめに

「UNIX ワークショップ'86 in 横浜」は、1986年10月22日から24日まで、横浜の中華街のなかにあるホテルでおこなわれました。これは、当時のさまざまなUNIXに関する話を、泊り込みで、話してしまおうというものでした⁴。

UNIX ワークショップ '86 in 横浜

いいわけ

今、『最新 UNIX』を読みかえしてみると、このワークショップは5つのセッション、

- A. ソフトウェア開発環境
- B. ネットワークと分散環境
- C. オフィスと UNIX
- D. ハッカーたちの BOF
- E. UNIX の将来

に分れていたらしい。しかし、私は、B、DとEのセッションしか記憶がありません(どうも、部屋で眠ってい

各セッションのテーマ
(セッションの記録はbit臨時増刊
「最新UNIX」に掲載)

6	石田 晴久 いしだ はるひさ	東京大学
28	岸田 孝一 きしだ こういち	ソフトウェア・リサーチ・アソシエイツ
41	斎藤 信男 さいとう のぶお	慶応義塾大学
43	坂下 秀 さかした しゅう	アステック
44	坂村 健 さかむら けん	東京大学
45	坂本 文 さかもと あや	デジタルコンピュータ
67	孫 正義 そん まさよし	日本ソフトバンク
112	村井 純 むらい じゅん	東京工業大学
115	山口 英 やまぐち すぐる	大阪大学

参加者 リスト (抜粋)

今のSRA

当時はまだ
通信事業者
ではない

1980年代のjusの活動

- jusの黎明期
- 主な話題
 - UNIXシステム管理 / ワークステーション環境
(特にGUI) / 日本語対応 / ネットワーク接続 /
SystemVとBSD / 地域活動(特に関西) / 国際交流
- UNIXが主役を張るまでの成長期

1980年代のjusの活動から 読み取れること

- **ベンダー中立な**ITコミュニティの原形がすでに成立している
- 組織を超えたIT技術者のつながりを形成
- 活動範囲がすでにUNIXの枠を超えている
 - 特にインターネット技術関連
 - 他に情報交換する場がなかったのでjusでやっていた
 - こういう事例はjus以外のコミュニティでも見られる
 - YAPCはPerl以外の話題でも発表可
 - 活動範囲を広めに取った方が長生きする？

第8回 Session 1 基調講演

UNIX 過去、現在、未来

斎藤 信男

(慶應義塾大学)

UNIX は、現在、コンピュータ・サイエンスの研究者にとっての共通のオペレーティング・システムであり、また、最近では、ビジネスの世界にも広まりつつある最も有用なオペレーティング・システムとなった。

第8回シンポジウムの基調講演
(1986年11月)

UNIX がこのように広まった理由には、その使いやすさはもちろんであるが、研究の成果、すなわち、UNIX 上で開発されたソフトウェアを研究者間で共有できるという点を忘れることはできない。ある研究者が作成したシステムを、UNIX という共通のオペレーティング・システムを基盤とすることで、相互に研究成果を交換し、より高度な研究を進めることが可能となったのである。パブリックドメイン・ソフトウェアもまた、UNIX を基盤とすることによって多くの人びとが使用し、有益なフィードバックを得ることができるといった環境によって発展してきた1つの形態であると思う。

現代のオープンソースに通じる考え方は
1980年代にはすでにあった
(言葉が作られるのは1990年代後半)

1990年代前半の jusの活動と周辺動向

- 会の規模という意味ではjusの最盛期
 - 最大2000人超(ちなみに現在は約60人)
 - jusに参加しないとUNIXの情報が手に入らないからたくさん集まってきた
- 当時の主な活動
 - シンポジウム/UNIX Fair(商業展示会)/
 - 地域研究会(関西/東海)/ソフトウェア配布/国際交流
- 周辺動向
 - UNIXが商用OSとして成功
 - インターネットへの接続が大きな関心事
 - 商用インターネットのサービス開始
 - PC-UNIX(Linuxなど)の黎明期
 - UNIXの国際化や標準化活動がさかんに行われる
 - 標準化はうまくいかなかった

1990年代後半の jusの活動と周辺動向

- 当時の主な活動
 - シンポジウム/UNIX Fair(-1995)/勉強会(1994-)
 - 地域研究会(関西/東海)/PC-UNIX研究会
- 周辺動向
 - UNIXが業務での共有機から個人での専有に
 - 商用UNIXの衰退、Windows95/NTの普及、Linux/FreeBSDの台頭
 - 商用インターネットと個人利用の普及
 - Webの普及とCGI全盛
 - PerlやRubyなどスクリプト系言語の台頭
 - オープンソースの概念登場
 - コミュニティによる開発および普及活動の顕在化

Perl Conference Japan報告

法林浩之、前田薫、齊藤明紀

11月11日(水)、12日(木)の両日、新宿・パークハイアット東京にて、オライリー・ジャパン主催による「Perl Conference Japan」が開催されました。jusはこのイベントの協賛団体として、プログラムの作成や運営への協力を行いました。

Perl Conference Japan
(1998年11月)

Update :
1998/11/13



OVERVIEW

WORKSHOP

TUTORIAL

COMMITTEE

SPEAKERS

協力団体



おかげさまで、The Perl Conference Japanは盛況のうちに無事終了いたしました。ありがとうございました。ご協力いただいた皆様、参加いただいた皆様のおかげで大変すばらしい時間を持つことができました。

後日このページで当日の様子などを掲載いたします。
どうぞご期待ください。

開催：1998年11月11日（水）-12日（木）

場所：[パークハイアット東京](#)

開催内容

- Perlの開発者Larry Wall氏とU.S. O'Reilly社長
Tim O'Reillyがスピーカとして来日！

<https://www.oreilly.co.jp/pcjp98/>

Perl Conference Japan (1998年11月)

Perl Conference Japan

- 日本初の、Perlを主な題材とするカンファレンス
- YAPC(Yet Another Perl Conference)は、このイベント(の米国版)に対するYet Another
- 主なセッション
 - 基調講演：Tim O'Reilly、まつもとゆきひろ
 - 特別講演：Larry Wall
 - Web関連：CGI, mod_perl, セキュリティ
 - Perl for Win32関連
 - 日本語処理関連：jperlなど
 - ケーススタディ、スクリプト言語比較など

11月11日(水)

P1: 基調講演(**Tim O'Reilly** 氏)、
特別講演(**Larry Wall** 氏)

はじめに O'Reilly 氏が講演し、Perl Conference の開催意義を「現場でもっともよく使われている言語である Perl を、もっと大衆にアピールするため」であると説明しました。また、Perl のようにソースプログラムを公開することで誰でも改良を可能にするという考え方を「オープンソース」という言葉で表し、インターネットを支えているのはオープンソース的な考え方であることを指摘されました。

日本にオープンソースという言葉が入ってきたのはたぶんこのとき

11月12日(木)

P2: オブジェクト指向スクリプト言語 **Ruby**

(まつもとゆきひろ氏)

2日目は、Perlに限らずオープンソース全般からテーマを取り上げようということで、Rubyの開発者であるまつもとさんに基調講演をお願いしました。

Rubyはオブジェクト指向スクリプト言語のひとつで

まつもとさんの基調講演も初めて(?)
当時のRubyのバージョンは1.2



Yukihiro Matsumoto

1995/12/21 17:00:00 ☆

To:

まつもと ゆきひろ@トヨタケーラムです。

こここのところ、細々と開発を続けて来たオブジェクト指向スクリプト言語 ruby を公開します。

rubyは「手軽なオブジェクト指向」をテーマにしたオブジェクト指向スクリプト言語インタプリタです。一応、perl程度の仕事は大体こなせる程度の機能は持っています。

特徴は

- + Alogolっぽい文法(ちょっと独特)
- + 変数に型は無い
- + 変数名でスコープが分かる(\$varは大域変数, Varは定数, varはローカル変数, @varはインスタンス変数)
- + 普通のオブジェクト指向機能(クラス, メソッドコールなど)
- + 珍しいオブジェクト指向機能(Mixin, 特異メソッドなど)
- + 演算子オーバーロード
- + 例外処理機能
- + イテレータとクロージャ
- + ガーベージコレクタ
- + ダイナミックローディング(アーキテクチャによる)
- + 簡易Tkインタフェースもある
- + ドキュメントが貧弱(特徴じゃないぞ)

などがあります。後、C言語による拡張も容易にできるようになっています。

<https://groups.google.com/g/fj.sources/c/bCc2JimcmAo/m/ONqCnbyG7LMJ>

fj.sourcesにて
Rubyを公開
(1995年12月)

ソースコードを
公開して皆で
改良する文化は
以前からあった

それに後から
オープンソース
という名前が付いた

Ruby Workshop 報告

日時: **1999年9月4日(土) 9:30-18:00**

会場: 日本オラクル株式会社 本社セミナールーム

Ruby は、オブジェクト指向プログラミングに適したスクリプト言語として注目されています。jusでは、Rubyの作者であるまつもとゆきひろさん、およびRubyのユーザグループの協力を得て、Ruby Workshop を開催しました。参加者数は82人で、4つのセッションと1つの

Ruby Workshop (1999年9月)

Ruby Workshopのセッション

- Ruby作者によるRubyについて：まつもとさん
- Windows環境におけるRuby
- RubyのGUI環境
- RubyとOracle：宮原徹さん (日本オラクル)
 - 半分ぐらいはRuby普及プランの話
- 利用者環境から見たRuby
 - 利用事例とディスカッション

2. Ruby を普及させるには

現状、Ruby は Java や Perl などに比べて、まだまだ誰もが知っている言語とは言えません。Ruby をもっと多くの人に使ってもらうためにはどうすればよいでしょうか。これについて、さまざまな意見や提案が出されました。

- 当時のRubyは、評価は高かったが、業務の現場での採用例は少なかった
 - Ruby on Railsはまだない (2004年公開)
- この時代は、どうすればRubyが広まるか/仕事で使えるかという議論がさかんに行われていた

オープンソースまつり '99 in 秋葉原 報告

法林浩之、龍池哲也

片山喜章、小池正仁

jus は、1999年11月12日(金)、13日(土)の両日にわたって、ぷらっとホーム(株)、日本Linux協会との共催により、「オープンソースまつり '99 in 秋葉原」を開催しました。

オープンソースまつり '99 in 秋葉原 (1999年11月)

jus としては約2年半ぶりの展示会開催となりましたが、以前行っていた商業的な展示会とは少し趣きを変えて、日本の各種オープンソースソフトウェアのコミュニティに集まっていたいただき、その活動を展示やセミナーなどの形で紹介していただくという、これまでの展示会にないタイプのイベントになりました。開催地も、オープ

- 以前行っていた商業的な展示会=UNIX Fair
- OSSコミュニティが集まったイベントとしては日本初
- 1999年と2001年の2回開催
- 大量に赤字を出したので2回で終了
 - OSSやコミュニティに協賛が集まる時代ではなかった
- 2002年にKOF、2004年にOSCが始まり現在に至る

オープンソースまつり'99

(((in 秋葉原)))

主催

[日本UNIXユーザ会](#) [ぷらっとホーム株式会社](#) [日本Linux協会](#)

協賛

[インテリジェント・テレコム株式会社](#) [三菱電機株式会社](#) [檜崎産業株式会社](#) [ターボリナックスジャパン株式会社](#)
[株式会社ビレッジセンター](#) [日経BP社](#) [日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社](#)

趣意書

開催日時

1999年 11月 12日(金)～13日(土)
両日とも 10:00 ～ 17:00

会場

[ヒロセイベントスペース](#)
(廣瀬本社ビル B1F・1F・5F)
JR秋葉原駅電気街口徒歩3分

<https://www.jus.or.jp/matsuri/>

参加団体

日本Linux協会

Linux Japanese RPM Project

FreeBSD友の会

日本NetBSDユーザーグループ ☆

RT-Mach プロジェクト

日本PostgreSQLユーザ会 ☆

Tokyo Perl Mongers

Rubyユーザコミュニティ ☆

日本Sambaユーザ会 ☆

京都産業大学

ソースプログラム・アーカイブ・サイト Sappy

Ladies' *BSD Users Group

Project BLUE

他

初回の
オープンソース
まつりの
参加団体

☆は現在でも
活動を確認できる
コミュニティ
(京都産業大学を除く)

2000年代前半の jusの活動と周辺動向

- jusの主な活動
 - オープンソースまつり/関西オープンフォーラム/
LLイベント/BSD&Linux Day/勉強会
- 周辺動向
 - オープンソースの概念が広まる
 - 各地にOSSコミュニティ(特にLinuxユーザー
コミュニティ)が立ち上がる
 - FreeBSDとLinuxの勢力が拮抗
 - スクリプト系言語が勢力を拡大
 - IPv6の基礎が確立される
 - 仮想化技術が使われ始める

関西オープンソース+フリーウェア 2002

報告

法林浩之

日時 2002年12月6日(金)~7日(土)

会場 大阪産業創造館

2002年12月6日(金)~7日(土)の2日間、大阪産業創造館にて「関西オープンソース+フリーウェア 2002」が開催されました。その模様を報告します。

このイベントは、合い言葉が「開発者とユーザのコラボレーションを関西から!」となっていることからわかるように、オープンソースやフリーウェアの開発者コミュニティと一般ユーザとの出会いや交流を生み出すことを目的としています。関西に活動拠点を置くコミュニティ、企業、大学などさまざまな組織が参加しての合同企画という形で進められました。jus も後援という形で参加し、運営にも積極的に関わりました。

関西オープンフォーラム (KOF)

- 関西のオープンソースやコミュニティの集合イベント
- オープンソースまつりを見た関西の人たちが「あれをやりたい」と言って始まった
- 名称の変遷
 - 2003- : 関西オープンソース＋フリーウェア
 - 2005- : 関西オープンソース＋関西コミュニティ大決戦
 - 2013- : 関西オープンフォーラム
- ボランティアベースの運営コミュニティによる大規模イベントの先駆け？
- イベント名に「コミュニティ」を付けたのも先駆け？
- KOFの成功や課題を踏まえて2004年からオープンソースカンファレンス(OSC)が始まり、全国展開&安定運用に成功

2002年9月 6日
実行委員長 中野秀男

21世紀を迎えて社会が大きく変化しています。
インターネットという双方向の情報インフラが、地球規模で整ってきました。
そんな今、人類は、新たな時代への転機を迎えています。
環境を意識し世界規模で資源を共有した社会の可能性が見え始めています。
共有協調への意識の変化がソフトウェア産業を中心に起っています。

関西は、これまで新しい文化を起こして来た土地柄であり、文化交流の中から
新たなものを導き出すパワーにも満ちています。
すでに、多くのソフトウェア技術が発信されています。
草の根的に多くのオープンソースやフリーウェアを推進するコミュニティも
存在しています。
そしてこれまで産業を担ってきた多くの地場産業もあります。

「関西オープンソース+フリーウェア2002」は、ソフトウェア技術を中心に、
ユーザとの垣根のない交流の上で、次世代のグローバルな産業の有り方を示します。
自由に参加できるソフトウェア技術を通した夢の広がるイベントを目指します。

初回のKOFの趣意書

Yet Another Ruby/Perl Conference 19101 報告

法林浩之、佐藤晃洋

日時 2001年5月26日(土)

場所 (株)アスキー本社 B2ホール

米国では毎年 Perl Conference が開催されており、日本でも昨年、2回目の Perl Conference が Perl/Ruby Conference として開催されました。

しかし米国では、Perl Conference に対して「いつも西海岸で開催される」「参加料が高い」といった不満があるそうです。そんな中、東海岸で安い Perl Conference が「Yet Another Perl Conference ~YAPC(ヤップ・シー)」として開催され、以来、世界各地で YAPC が開催されていますが、日本では Ruby も対象に加え、「Yet Another Ruby/Perl Conference ~YARPC(ヤルプ・シー)」として開催しました。

YARPC 19101 (2001年5月)

YARPC 19101

- PerlとRubyを対象とするカンファレンス
- jusの行事としては、Perl Conference(1998年)、Ruby Workshop(1999年)に続く言語イベント
- 19101は、2000年問題に未対応のプログラムが2001年を迎えたときの表示
- 当時、Perlは全盛期、Rubyは流行前(Rails公開前)、Pythonは存在すら知られていない
- YAPCは現在も開催中
- jusの言語イベントはLLイベント(2003年-)に受け継がれる

Lightning Talks

これは米国 YAPC で人気のコーナーのスタイルを取り入れたもので、一人5分の持ち時間で何でも好きなことを話していいというコーナーです。テーマに制限は一切なく、Ruby/Perl 以外のことを話しても OK ですが、その代わり制限時間の5分が経過すると話の途中でもベルが乱打されて話は打ち切られてしまいます。今回の YARPC でも5分で話をまとめきれずにベルを鳴らされてしまう人が続出し、会場の笑い&拍手を誘っていました。

日本初のライトニングトーク開催

- 「Lightning Talks とは何か」：前田薫
- 「正規表現図解ツール Regex::Diagram」：前田薫
- 「RAA の紹介」：五十嵐宏
- 「Pure Perl な Excel ファイルの使い方」：川合孝典
- 「ダミアン・コンウェイ作の変なモジュール見い〜つけた」：台場圭一
- 「256 本シリーズの裏話」：助田雅紀
- 「Apache::Registry による CGI の高速化」：宮川達彦
- 「XML Schema 以外の何か with スクリプト言語」：高橋征義
- 「CGI.NET による Web アプリケーション開発」：早川真也
- 「プログラミング言語にみる世代間の断絶」：高林哲
- 「Ruby の多言語化対応」：まつもとゆきひろ

YARPC 19101 のLT

← 初の高橋メソッド
による発表

Lightweight Language Saturday 報告

法林浩之

主催 Light Language Saturday 実行委員会

日時 2003 年 8 月 9 日 (土) 10:00~17:00

会場 法学館 502AB 教室

毎日のログ整理、CGI プログラミング、ネットワーク管理など、簡単なことを手軽に、凝ったことでもそれなりに実現できるのが Lightweight Language(軽量プログラミング言語)です。今回、Perl, PHP, Python, Ruby コミュニティと jus が協力し、Lightweight Language が大好きな人達の集まりとして、「Lightweight Language Saturday」(通称: LL Saturday)を開催しました。

これまで、個々の言語に対する勉強会や会合は多数ありましたが、これらが一堂に会する機会は他に類を見ないもので、軽量プログラミング言語の世界を広く体験できる初のカンファレンスとなりました。そのためか参加

Lightweight Language (LL)

- それまでの主流プログラミング言語(CやJavaなど)に比べて、手軽に書けて生産性の高い言語を Lightweight Language (LL) と称する動きが発生
- LLに関するイベントを2003年から開始
- 当初の参加言語：Perl, PHP, Ruby, Python
- LLがトレンドみたいになり、多くの言語が参戦
- 2000年代後半から各言語のカンファレンスが始まり LLはトレンドから離脱
- 2017年からはLLをLearn Languages (複数の言語を学ぼう) と再定義してイベントを継続

☆パネルディスカッション: LL とオブジェクト指向について

Perl 宮川達彦 (エッジ)

PHP 藤本真樹 (TUNEBiZ)

Python 磯蘭水 (日本 Python ユーザ会/青山学院大学)

Ruby 中田伸悦

司会 小山哲志 (日本 UNIX ユーザ会)

オブザーバー まつもとゆきひろ (ネットワーク応用通信
研究所)

今回対象としている 4 言語は、オブジェクト指向に関して考え方も実装している機能もそれぞれ異なります。各言語の代表者の方々にその言語のオブジェクト指向機能について解説していただき、各言語の特徴を明確にするのがこのセッションの目的です。

☆キミならどう書く？

あらかじめ出された課題について 4 言語の方にプログラムを書いてきていただき、レビューを行うセッションです。各言語または言語コミュニティの特長が活かしたプログラムを比較できる、またとない機会です。以下、当日実施された 3 つのテーマについて順に紹介します。

1. ウェブアプリケーション

お題:「Web サイトから RSS ファイルを取得し、それをブラウザで閲覧する Web アプリケーションを作成する」

発表者:

Perl 早川真也 (エッジ)

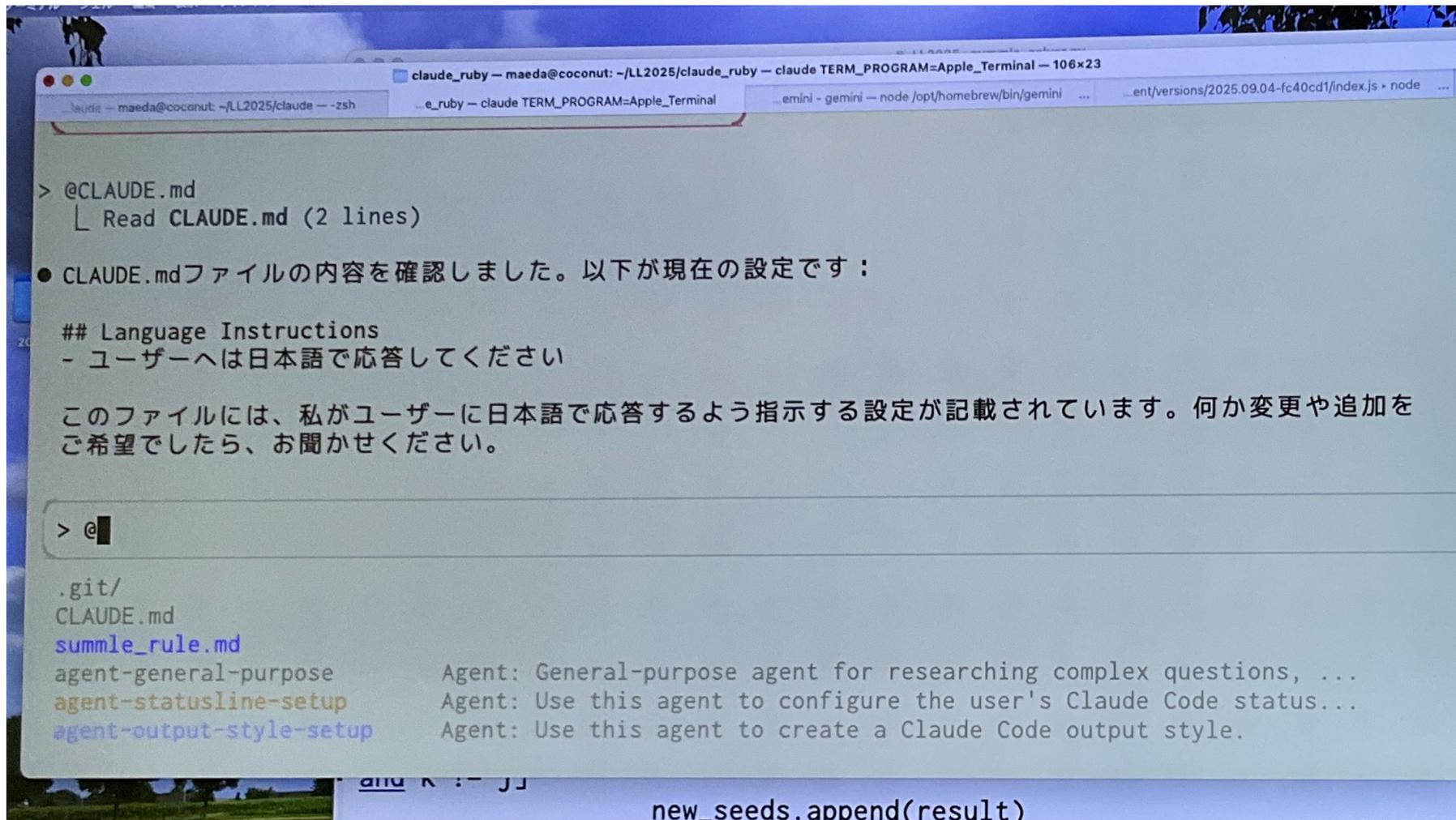
Python 浦郷圭介 (日本 Python ユーザ会)

Ruby ただただし (tDiary)

PHP 重松修

LL イベントの名物セッション
「キミならどう書く？」

今年の「キミならどう書く？」



```
> @CLAUDE.md
└─ Read CLAUDE.md (2 lines)

● CLAUDE.mdファイルの内容を確認しました。以下が現在の設定です：

## Language Instructions
- ユーザーへは日本語で応答してください

このファイルには、私がユーザーに日本語で応答するよう指示する設定が記載されています。何か変更や追加をご希望でしたら、お聞かせください。

> @

.git/
CLAUDE.md
summlerule.md
agent-general-purpose      Agent: General-purpose agent for researching complex questions, ...
agent-statusline-setup     Agent: Use this agent to configure the user's Claude Code status...
agent-output-style-setup   Agent: Use this agent to create a Claude Code output style.

new_seeds.append(result)
```

その場でAIに指示して全部書いてもらった

2000年代後半の jusの活動と周辺動向

- jusの主な活動
 - LLイベント/関西オープンフォーラム/
Internet Week/勉強会/jus研究会(各地開催)
- 周辺動向
 - 携帯端末や通信環境の進歩
 - スマホ/WiFi/モバイル回線
 - アプリの通信がすべてHTTPに集約
 - Webサービス開発がさかんになる
 - 開発言語としてのLLの台頭(特にRuby)
 - 技術コミュニティ文化の確立
 - 勉強会の開催がさかんに
 - それをささえる各種サービスの登場

Lightweight Language Weekend 報告

法林浩之

主催 Light Language Weekend 実行委員会

日時 2004 年 8 月 7 日 (土) 10:00~16:40

8 月 8 日 (日) 10:00~16:30

会場 日本電子専門学校 9 号館メディアセンター

2003 年 8 月に開催された Lightweight Language Saturday は、日本初の軽量プログラミング言語に関するイベントとして大変好評を博しました。そこで今回は 2 日間に規模を拡大し、Lightweight Language Weekend(通称: LL Weekend) というタイトルで開催しました。真夏の暑い日であるにも関わらず、参加者とスタッフ合わせて総勢約 300 人が集う大イベントとなりました。

LL Weekend (2004年8月)

◇ LL を仕事に

LL を「商売道具」として堂々と胸を張ってを使うためにはどうすればよいかを議論するセッションです。このセッションでは事前にアンケートを取り、その結果を提示しながら参加者が自由に発言する形式で進行了ました。アンケートの設問は以下の4つです。

Q1. あなたは LL を仕事にしたいと思いますか？

Q2. 実際に LL を仕事にしていますか？

Q3. LL を仕事にすることについての悩みや苦勞、あるいは LL を仕事にできない理由がありましたら、できるだけ具体的にお書きください。

Q4. LL を仕事にすることについて参加者の皆さんに聞いてみたいことがありましたら、お書きください。

2004年当時は、LL(特にRubyとPython)を業務で使うことは一般的でなかった

◇フレームワーク対決

LL による WEB フレームワークについて発表していただきました。発表していただいたフレームワークと発表者は以下の通りです。

- Sledge : 池邊智洋 (ライブドア)
- Ruby on Rails : 高橋征義 (日本 Ruby の会)
- Kahua : 柴田知久 (タイムインターメディア)

いずれも言語の特徴を色濃く反映してるフレームワークで、それぞれ、Sledge は Perl, Rails は Ruby, Kahua は Gauche で実装されています。発表にはデモも含まれ、実

LL Day and Night (2005年8月)
フレームワーク対決にRuby on Railsが登場

◎キミならどう書く

与えられた課題についてフレームワークを使い、事前にプログラミングしていただき、その成果物について発表していただきました。課題は「費目にタグを付けられる家計簿」です。発表していただいたフレームワーク、言語、発表者は以下の通りです。

- Django(Python) : 露木 誠 (Django と日本の仲間たち), 徳嶋和敬 (Django と日本の仲間たち)
- Kahua(Gauche) : 伊東勝利 (タイムインターメディア), 備前達矢 (Kahua プロジェクト)
- Ruby on Rails(Ruby) : かずひこ (ネットワーク応用通信研究所), secondlife(はてな), 鈴木美保 (ツインスパーク)
- Ethna(PHP) : 藤本真樹 (グリー), 鶴岡直也 (サイボウズラボ)

LL Ring(2006年8月)でも
フレームワークを使った課題を実施



LL RingはITイベント史上初(唯一無二?)の
プロレス会場で実施

関西オープンソース 2008 +
関西コミュニティ大決戦 報告
法林浩之

日時 2008年11月7日(金) 13:00~18:00
2008年11月8日(土) 10:00~18:00

会場 大阪南港 ATC ITM 棟 6F マーレギャラリー
ほか

2008年11月7日(金)~8日(土)の2日間、関西オープンフォーラムの主催による「関西オープンソース 2008 + 関西コミュニティ大決戦」(KOF2008)が開催され、jus

関西オープンソース + 関西コミュニティ大決戦
(現：関西オープンフォーラム) (2008年11月)

◇同時開催イベント

KOF ではほぼ毎年、特定のコミュニティにユーザ企画や展示の枠をまとめて提供し、同時開催イベントという形で開催していただいています。過去には BSD Conference や Linux Conference などが行われてきたのですが、今年には Ruby コミュニティが主催する「関西 Ruby 会議 01」が同時開催されました。内容としては他のコミュニティと同様の展示やユーザ企画に加えて、PC 教室を使った Ruby プログラミングのハンズオンセミナーや、ジュンク堂書店による書籍の出張販売も行われました。

同時開催イベントとして
関西Ruby会議が開催される

各言語コミュニティの活性化

- LL系の各言語ごとのカンファレンスが始まる
 - PHPカンファレンス：2000年開始
 - (LLイベント：2003年開始)
 - 日本Ruby会議：2006年開始
 - RubyKaigi(国際会議)は2013年から
 - YAPC::Asia Tokyo：2006年開始
 - PyCon JP：2011年開始
- 各地域にも言語コミュニティやイベントが発生
 - 関西Ruby会議もその1つ
- 現在も各言語のカンファレンスは多数開催

Internet Week 2008 報告

高野光弘

*** IT Community Impact 〜世界を変える新たな潮流〜 ***

日時: 2008年11月25日(火) 9:30-17:00

場所: 秋葉原コンベンションホール 5階 Room5A

IT Community Impact ではITコミュニティのイベントや勉強会についての話題を中心に以下の4セッションが行われました。

IT Community Impact !
@ Internet Week 2008 (2008年11月)

1)ITコミュニティイベントの概要

講演者：

jus勉強会： 法林 浩之/日本UNIXユーザ会(jus)

カーネル読書会： 吉岡 弘隆(よしおかひろたか)/ミラクル・リナックス株式会社

オープンソースカンファレンス： 宮原 徹/オープンソースカンファレンス運営事務局

IT勉強会カレンダー： hanazukin(やまぐちあゆみ)/まっちゃん139勉強会

内容：現在の状況について議論をする前に、一度歴史を振り返り、経緯を俯瞰的に眺めてみたいと思います。そのために、古くからコミュニティイベントを企画・開催してきた方々や、現状に大きく影響を与えた方々をお呼びして、コミュニティイベントにかける思いなどを語っていただきます。



法林 浩之



吉岡 弘隆



宮原 徹



hanazukin

<https://www.nic.ad.jp/iw2008/popup/51.html>

IT勉強会カレンダーの作成により、
勉強会が多数開催されていることが可視化される

2)パネルディスカッション「地域コミュニティ」

講演者：

北海道LOCAL： 澤田 周/LOCAL/株式会社サイクル・オブ・フィフス

日本PostgreSQLユーザ会 九州支部： 清末 直

KOF(関西オープンソース+関西コミュニティ大決戦)： 安田 豊

toRuby： 池澤 一廣/toRuby(とるびい／とちぎRuby)

内容：ITコミュニティが活発なのは、なにも首都圏だけではありません。日本全国でさまざまな地域の方々が、それぞれの特色を生かして積極的に活動していらっしゃいます。ここでは実際に地域で活動してる方々をお呼びして、それぞれの特色を語っていただきます。



澤田 周



清末 直



安田 豊



池澤 一廣

<https://www.nic.ad.jp/iw2008/popup/51.html>

地域コミュニティも各地に生まれる

3)運営をサポートするツール紹介

講演者：

エンジニアの未来サミット： 馮富久(ふおんとみひさ)/株式会社技術評論社

OSC 出展者受付ツールについて： 宮原 徹/オープンソースカンファレンス運営事務局

ATND (atnd.org)： 川崎 有亮/株式会社リクルート

コミュニティでの動画配信の広がり、それらをささえるツール： 荻原 一平/KaigiFreaks/日本PHPユーザ会

内容：コミュニティイベントが大きく発展しているのは、運営をサポートするツールやサービスによるところも大きいです。このセッションではそのツールやサービスに焦点を当てた発表を行います。



馮富久



宮原 徹



川崎 有亮



荻原 一平

<https://www.nic.ad.jp/iw2008/popup/51.html>

イベント運営管理サービスATND開始 (2008年)

connpassもDoorkeeperもまだない
(connpass：2011年、Doorkeeper：2010年)

2010年代前半の jusの活動と周辺動向

- jusの主な活動
 - LLイベント/関西オープンフォーラム/Gadget1/
Internet Week/勉強会/jus研究会(各地開催)
- 周辺動向
 - クラウドの登場
 - 映像配信サービスの普及(Ustreamなど)
 - iPhoneやAndroidの普及(jusの活動ではGadget1)
 - HTML5の登場
 - JavaScriptの台頭
 - IPv4アドレス枯渇問題
 - JAWS-UGによるコミュニティマーケティング
手法の確立
- この年代になるとOSSやコミュニティは目新しい
ものではなくなっている感あり

2010年代後半以降のjusの活動

- jusの主な活動
 - LLイベント/関西オープンフォーラム/
Internet Week/勉強会/jus研究会(各地開催)
- jus研究会のテーマ
 - ITコミュニティの運営を考える
 - 平成生まれのためのUNIX/IT歴史講座
- 全体的には縮小傾向 (Internet Weekを除く)
 - Internet Weekは主催者(JPNIC)や各種インターネット
コミュニティ/業界団体に支えられて健在
- jusの活動が業界動向とリンクしなくなる
 - 幹事の高齢化により興味が技術トレンドと乖離
 - コミュニティやイベントを作るハードルが下がり、
jusに頼る必要がなくなった

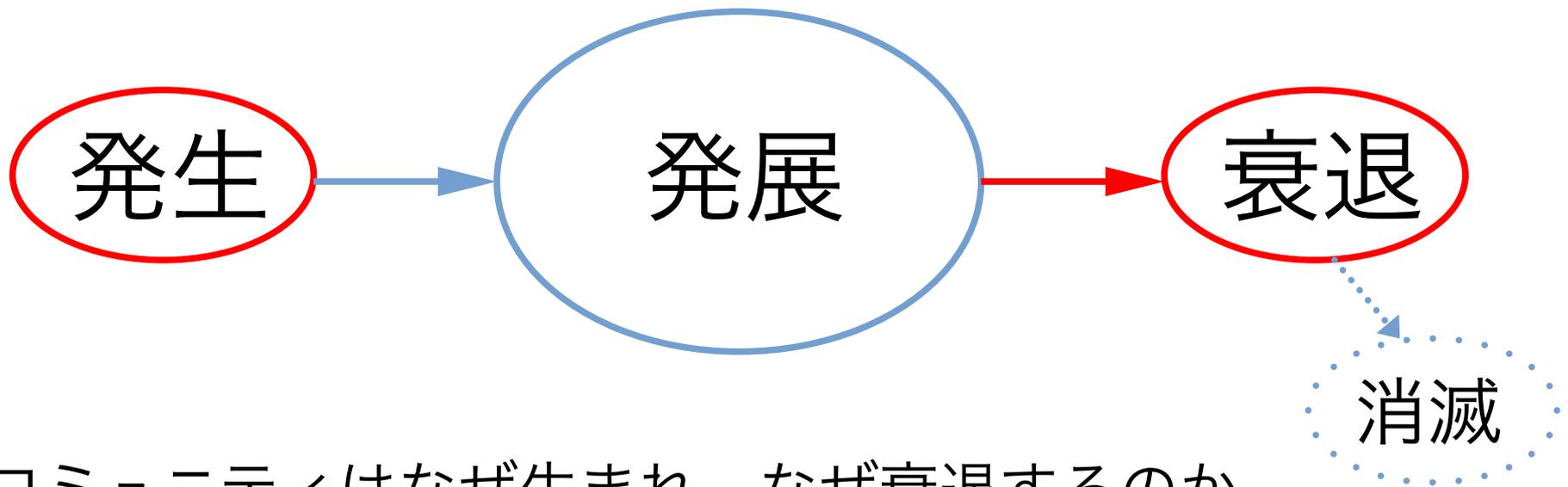
本日の演目

- 主にjusの会報からITコミュニティの歴史をたどる
- 特にOSS関連のコミュニティの歴史を重点的に紹介
- これらの体験から、コミュニティの発展や衰退について考察
- コミュニティの終活について考える

おことわり

- ここから先の話は、法林が自らの経験から得た感覚に基づいて話をするので、出典がない
- 異論も多々あるだろうし、参加者の皆さんは法林とは異なる経験をしていると思うので、発表後の質疑応答や懇親会で議論したい

コミュニティの 発生から消滅まで



コミュニティはなぜ生まれ、なぜ衰退するのか
持続するコミュニティはなぜ続くのか

コミュニティが生まれるとき

- 情報が簡単に手に入るものについてはコミュニティは生まれない
 - 検索してすぐにたくさんの情報が得られる
 - 書籍や雑誌などに多数載っている
 - 事業者にお問い合わせれば回答が得られる
- 検索や問い合わせでは解決策が得られない場合は
詳しくそうな人を探して情報交換するしかない
→ そういう場合にコミュニティが生まれやすい
- 流行は関係ないかも
 - 上記の理論(?)から考えるとニッチな話題の方が
コミュニティが成立しやすい
 - 流行の話題は情勢が流動的で周囲と情報交換したくなるので、それはそれでコミュニティが機能しやすい

コミュニティが発展するとき

- 発展する＝人が集まってくるのはどういうときか
- コミュニティが扱っているテーマが…
 - そこに行かないと情報が得られない
 - 検索しても情報が見つからない
 - 何らかの魅力がある
 - 今までにない何かができそう
 - 金になりそう
 - 他にも要因はあるかも
- 発展するためにはコミュニティからの情報発信が重要
 - 外部から見て何をやっているかがわかる
 - 発信しているコミュニティに情報や人が集まる

コミュニティが衰退するとき

- テーマが流行を過ぎて需要がなくなった
- 新たな情報が生まれなくなった(開発の停滞など)
- 人を頼らなくても情報が簡単に手に入るようになった
 - `ju`(UNIX)やLinuxはこのパターンか
- 細かい方向性の違いで枝分かれし分散→勢力低下
 - 開発コミュニティに多いかも
 - 1990年代のUNIXもこれで衰退したと思う
 - 大きな外敵がいるのに内戦で消耗してはいけない
- 運営メンバーの高齢化
 - 体力や気力の低下
 - 人が運営している以上、若い世代に交代しなければ必ず発生
- 他にもいろいろなケースがありそう

コミュニティが持続するとき

- 運営者の熱意で続く
 - 日本NetBSDユーザーグループ：蛭原さん
 - jus：法林
 - 代替わりができないと衰退
- その技術が業務の現場で使われる
 - Ruby/Python/PHP/PostgreSQL/JANOG/セキュリティなど
 - 世代を超えてコミュニティが続くのはこのパターン
- 技術の枠を超えて人的交流の場として存続
 - LILO, jusなど
 - 代替わりができないと衰退

コミュニティの 発生や衰退について思うこと

- コミュニティは、テーマは技術であるとしても、結局は人と人のつながり
- その技術が現場で使われ、使う人たちが情報交換を求める間はコミュニティは続いていく
- たとえその技術が枯れても、関わった人たちが生きている限りは人的交流の場として続く
- 人がいなくなることでゆるやかに消滅していくもの
- 現在隆盛を極めているコミュニティも、それが永遠に続く保証はない

コミュニティの終活

- 活動記録が後追いでできないコミュニティ/イベントが多い
 - ウェブサイトが消滅 (ドメイン失効が多そう)
 - 外部サービスを利用していたらそれが消滅
 - ATND, Ustreamなど
- 当事者にとっては不要でも、外部から見たら歴史的に価値があることはありそう
 - 歴史的価値を決めるのは自分ではなく他人
- できれば活動記録を後世に残した方がよいと思う
 - 歴史を知ることによって車輪の再発明を防げる
 - 過去の活動を知ることによって今後の活動に役立ててほしい

永続性の高い保存は意外に難しい

- 永続性が高い＝数十年や100年後でも参照できる
- ネット上にコンテンツを載せるのに必要なものは
ドメイン/サーバ/管理者
- ドメインもサーバも存命する契約者が必要
- 関係者が滅亡すると契約者不在になるのでコンテンツは
消えてしまう
- 外部サービスもアカウントが必要なので関係者が滅亡
すると同じことに
- サービス自体も100年後に残っているかは疑問
- インターネットアーカイブの類に残ることを期待するしか
ないが保証できない
- 特にコミュニティは個人の活動に依存する部分が多いので
永続性の高い活動記録保存はさらに難しいのでは

永続性の高い記録の残し方(私案)

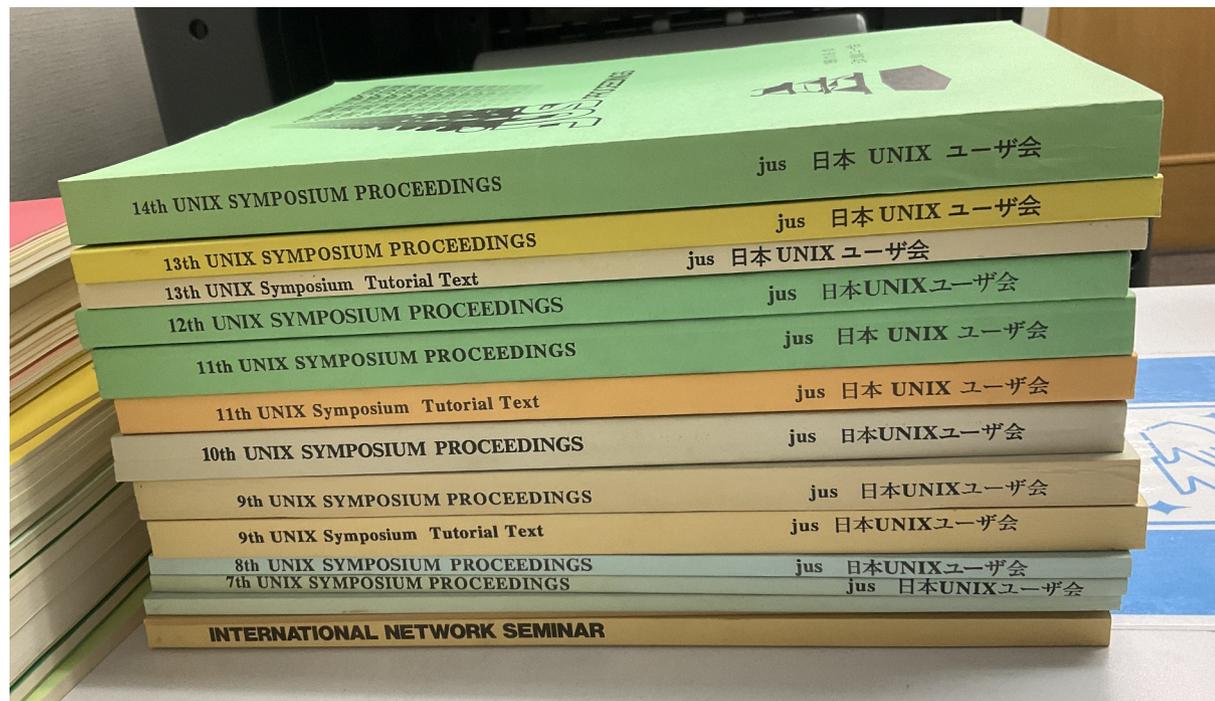
- コンテンツはすべて電子化
 - 紙で残すよりは永続性が高い？ (複製や転送が容易)
 - 2000年代以降はウェブに残っていることが多い
 - 紙媒体でしか残っていないものはスキャンする
- オンラインで公開しつつ静的コンテンツとして保存
 - ウェブコンテンツもクロールして保存
 - 外部サービスに載せているものはサービス終了に注意
- 静的コンテンツ群をDVDに記録して関係者に配る
 - HDDやSSDよりはDVDの方が壊れにくい？
 - Blu-rayよりはDVDの方が(ドライブが)長く残りそう？
- 関係者が滅亡するまではオンラインで公開し、滅亡後はDVDがどこかに残っている限りは生き残る？

jusの終活

- 動ける幹事が減少 (現時点で10人弱)
- イベントなどの対外的な活動よりも事務作業がきちんと行えなくなっている
- 2033年の50周年をメドに活動終了を検討中
- それまでに活動記録の保全を実施したい
- ただいま古文書のスキャンを進行中
 - 主に1980年代～1990年代前半の活動
 - 1996年以降は電子的な記録が多く残っている
 - おそらくその頃にjus事務局にネット回線とサーバが導入された

jusの古文書

(紙で作成/配布
していたもの)



- /etc/wall (会員向けの会報/全編電子化済み)
- シンポジウムの論文集
- UNIX Fairのセミナー資料
- UNIX Fairのネットワーク構築に関する資料
- イベントの告知チラシ (1990年代までは紙で配布)
- 幹事会の議事録
- イベントの写真
 - デジカメ普及以前はフィルムでしか残っていない
 - UNIX Fairの機材写真を残せたら貴重だが
コンパニオンの写真しか残っていないかも

本講演のまとめ

- 主にjusの会報からITコミュニティの歴史をたどる
- 特にOSS関連のコミュニティの歴史を重点的に紹介
- これらの体験から、コミュニティの発展や衰退について考察
- コミュニティの終活について考える

皆さんに

お伝えしたいこと

今の流行技術も
20年後には
歴史講座の題材

今すぐこの時代の
まとめを作る必要はない
でも今を記録に残すことは
やっておいた方がいい

今後のjusの活動予定

関西オープンフォーラム2025
11月7-8日(金土) 大阪南港ATC

オープンソースカンファレンスは
どこかでも出るかも

過去の資料も
こちらで公開中

<https://www.slideshare.net/hourin/>

もしくは
「slideshare 法林」で検索

ありがとうございました



つづきは懇親会で！